

ピープルの地平へ

世界の市場化に抗して

9

文化



フィリピン・ルソン島北部、イフガオという先住民族が暮らすイフガオ州は、標高二〇〇〇メートルを超す山々が連なる山岳地帯だ。首都マニラから車で十二時間、山肌を切り開かれた棚田で知られる地域からさらに奥へと入る。この山中に住む人びとは、太古から狩猟と木の実の採取によって日々の暮らしを営んできた。かつてイフガオの山々は深い密林に覆われていた。

しかし、一九六〇年代、高度成長期の日本企業がこの地域の木材を乱伐した結果、イフガオの人びとを痛めた。

一九九〇年にこの地を大地震が襲ったとき、マニラから救援に駆けつけたNGO



場所で焼畑をしなければならぬ。その繰り返しで、山は荒れるばかりだった。NGOのメンバーは、棒切れで作った二等辺三角形の頂点から右のついた糸を垂らした「測量器」を使って、山肌を荒れ地に等高線状に一定間隔の線を引いた。住民たちはまず、その線に沿ってアカシアなどマメ科の植物の種を植えた。これで急斜面の土が固定され、石や木の根を取り除くことができるようになる。また、マメ科の植物は空気

イフガオの山にマンゴーの木を植える(2000年1月、フィリピン・イフガオ州。撮影・佐藤愛輔)

二〇〇二年一月に訪れた(毎週月曜日に掲載します)

フィリピン イフガオの「開発」

北沢 洋子



【きたざわ・ようこ】国際問題評論家。1933年、東京生まれ。元日本平和学会会長。著書に「利潤か人間か」「開発は人びとの手で」など。

森と暮らしを再生する

果、森は失われ、山は木の根と灌木(かんぼく)が残るだけの無惨な姿に変わり果ててしまった。森の恵みを失った人びとは、生きていくために焼畑農業に依存せざるをえなかった。だがフィリピン政府は、焼畑は

〇の若者たちが目にしたのは、家屋の倒壊や道路の寸断など地震被害のひどきと同時に、人びとの飢えと貧困のすさまじさであった。若者たちは、現地にとどまって永続的な開発援助に取組みたいことを決意した。

それらNGOの一つに「フィリピン農村再建運動(PRRM)」がある。彼らは、マニラの農業研究所の専門家の技術援助を受けて、まず山腹の荒地を恒常的な農地に変えることに

中の窒素を土壌に固定するので、肥料の代わりになる。丈夫が五十センチ以上に伸びたら切ってそれも肥料にした。マメ科の植物の間に、まず陸稲を植えた。荒れ地は農地に姿を変え、主食のコメが収穫できるようになった。そして、同じようなやり方で、じゃがいも、玉ねぎ、トマトなどの野菜を植えていった。また、NGOが預けた鶏や豚のつがいも徐々に増やした。こうして住民たちは、最低限度食べていくことができるようになった。

次に取り組んだのは森の回復である。一般に植林と云うのは、山と人間が共存することで森林は回復されるし、そこに人間が生活しているからこそ環境を守ることができる。このことをイフガオの人びとは実証した。資本によって破壊された、森とそれを基盤に成り立っていた暮らしを、山岳の民が自らの手で再生してきた取り組みは、グローバルセッションに対抗して人びとが豊かな未来を開いていく、一つの方向を指していると思ふ。

開発と環境は対立するものと考えられがちである。しかし、開発のすべてがそうではない。山と人間が共存することで森林は回復されるし、そこに人間が生活しているからこそ環境を守ることができる。このことをイフガオの人びとは実証した。資本によって破壊された、森とそれを基盤に成り立っていた暮らしを、山岳の民が自らの手で再生してきた取り組みは、グローバルセッションに対抗して人びとが豊かな未来を開いていく、一つの方向を指していると思ふ。

今、村人たちの暮らしは、さまざまに循環型の仕組みが採り入れられている。家畜の糞(ふん)を床下の池に落として魚を育てる養魚池。水洗式トイレで流した人糞を集めて肥料をつくるシステム。いたるところにある滝を利用して、十戸ほどの家に電灯をとす、小規模な水力発電も行われている。

取り組んだ。当時のイフガオの人びとの焼畑は、山を焼いたあとにトウモロコシの種をまくだけの粗放農業だった。焼いた灰が肥料になって、その年は一定の収穫がある。しかし、翌年はまたほかの

取得組んだ。当時のイフガオの人びとの焼畑は、山を焼いたあとにトウモロコシの種をまくだけの粗放農業だった。焼いた灰が肥料になって、その年は一定の収穫がある。しかし、翌年はまたほかの

取得組んだ。当時のイフガオの人びとの焼畑は、山を焼いたあとにトウモロコシの種をまくだけの粗放農業だった。焼いた灰が肥料になって、その年は一定の収穫がある。しかし、翌年はまたほかの

取得組んだ。当時のイフガオの人びとの焼畑は、山を焼いたあとにトウモロコシの種をまくだけの粗放農業だった。焼いた灰が肥料になって、その年は一定の収穫がある。しかし、翌年はまたほかの